



からしだねの由来 マタイ 13 章 31 節、マルコ 4 章 30 節、ルカ 13 章 18 節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南 1 丁目 35-3
〒807-0025
TEL 093 (201) 0680 FAX (201) 7354
第 445 号

「出向いていく」教会

ロザイロ・ブラッドリー 神父

教会や修道院が近くにないところに住む人は、しばしば話し相手の司祭や修道者を探し求めることがあると思います。そして、そのような人に出会うと自分たちの喜びや悲しみを分かち合えるようにつながり続けたい気持ちになります。これは教会のないところに住む多くの人の現実です。

数年前に私は数人の人々が住んでいる小さな地域で奉仕していました。その場所に礼拝所がなかったので私は集まる施設を探していました。その時にあるカトリック信者夫婦がミサや集会のために自分たちの所有していた古い家を提供するのに寛大でした。これは田舎に住むキリスト者数名にとってとてもありがたく、そのおかげで私たちは月に 2 回ミサや会議のために集まることができました。古い家はチャペルに変わり、所有者にとっては神さまからの祝福でした。ミサに来られた大多数は年配の日本人だったので彼らは少数の若いベトナム人が参加することを非常に喜んでおり、彼らの存在は大きな違いをもたらしました。私は毎回ミサをする時にいつも家庭的な雰囲気を感じることができました。また、その雰囲気はミサ後の交わり（フェローシップ）をリラックスさせたのと同時に、喜びと悲しみを分かち合うことができる環境をも作ってくれました。特にベトナムの若い方は言葉や文化の壁にぶつかりながら生活していたので自分たちが少しでも落ち着いて話ができる場所があって良かったと思います。

さらに山に入ると、秘跡を待ち望んでいた数人に会いました。その一人はご高齢の方で病弱な女性でした。彼女の主な関心事は、自分が神様に呼ばれた時のカトリックの葬儀でした。家族の中で唯一の信者である彼女は近くの葬儀場に司祭を呼んでもらい、そこで葬儀や告別式を行うことが可能かどうかを知りたがっていました。私は彼女の話聞いて、その方が神様のところに行くために自分自身を準備するだけでなく、信者でない家族のことをも考えているように思いました。私が葬儀場でカトリックの葬儀ができる可能

信徒総会・教会学校のページ・・・3 面
幼稚園から・・・・・・・・・・4 面
ようこそブラッドリー神父様・・・5 面
小教区委員会報告・・・・・・・・6・7 面
お知らせ・平和を祈る集い・・・・8 面

性を提案した時に彼女の顔はとても幸せで満足しているように見えました。これはたった一人のことですが教会から遠く離れたところに住んでいる高齢者たちの関心事です。彼らは信仰生活や祈りなどの重要性を大事にしていると思います。だから、この世を去る時が来るとすべてがカトリックの儀式に従って行われることを希望しているように思います。

私は四国の高知で司牧していた頃ですが高知市から遠く離れた二つの町、須崎市や土佐山田市（どちらも車で片道一時間ぐらいかかります）に夜のミサのために行っていました。教会のない田舎町に外国から来られた農業研修生が住んでいます。彼らの多くはフィリピンからの研修生であり、与えられた最低賃金で何とか生活しています。須崎市にある古くて汚れた建物はミサをする場所です。その隣に寮があり、そこで20名くらいの若者が生活しています。ミサに与るために彼らと一緒にその近辺に住んでいるフィリピン人が集まることがあります。

土佐山田ですがたくさんの野菜畑や田んぼのあるところにフィリピンの若い研修生が生活しています。彼らの寮の周りに電気がないので夜は暗いですがそこでの低品質のビニールテントが仮設礼拝堂として機能しています。夏は蚊でいっぱいになり、冬は側壁がないので凍えるほど寒いです。土佐山田でのミサにはその近辺に畑の仕事をしながら日本に長く生活しているフィリピン人が与ることがあります。これらの場所では「教会」という建物がなくても、貧困と単純さの中にも祈りと礼拝のために集まる「信仰共同体」があるように思います。それが「教会」の真の意味ではないでしょうか。

天に召された教皇フランシスコは、教会が「出向いていく」必要性について頻繁に話しました。それは、教皇の言葉によると「周辺」と呼んでいる場所に出向いて行くことです。教会の外で様々な問題を抱えながら苦しい生活をしている人や社会から排除された人が多くいると思います。彼らのところに「出向いていく」ことは、日本の教会に奉仕する司祭・修道者にとって大きなチャレンジだと思います。

私たちは例えば、確立された修道院や小教区や幼稚園という構造の中で長く滞在し、奉仕していると思います。これは、日本に小教区を中心に働いて来た私にとって生活を快適にするだけでなく、社会の貧しい人々に挑戦されることの妨げとなっているように思います。そして、多くの場合、小教区の行事に縛られていたため、あまり外の世界が見えなくなったようにも思います。私たちは小教区あるいは修道院を離れ、恵まれない環境の中で恐れや不安を感じながら生活している人々のところに「出向いていく」ことによってイエス様がもたらされた救いを実際にすべての人に提供することができると思います。

カトリック水巻教会 2025年度・信徒総会開催

去る5月25日のミサ後、約50名の出席のもとで2025年度の信徒総会が開催された。

はじめの祈りに続き、主任司祭からのあいさつ。

1号議案として小教区他委員・小グループ代表者の紹介。任期満了に伴い小教区委員長が傍土貴子(ほうじたかこ)さんに、総務委員長が田中拓さんに交代になった。また地区代表委員が「梅ノ木・吉田・中間地区」は三原広寛さん、「赤間・海老津地区」は松永貴美子さんに交代になった。

2号、3号議案として2025年度のミサ、および主な行事計画の確認、2024年度の会計報告、会計監査報告、そして2025年度の予算説明があり、教会維持費献金が予算より少なくなっている現状などの報告があった。

その他、訃報の際の連絡の確認。まずは主任司祭に連絡。主任司祭から小教区委員長へ。小教区委員長から各地区委員長に連絡し、地区連絡網を通じて信徒へ連絡することとなった。

最後に前会長の上川直子さんの挨拶と新会長の傍土貴子さんの挨拶があり、閉会した。



教会学校のページ



6月15日、ブラッドリー神父様の歓迎会の時に子ども達にトコロテン突きの体験をしてもらいました。

子ども達にとっては珍しい初めての経験で楽しくできたようです。

その後みんなでおいしく食べました。





水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 7月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉



6月は畑にじゃがいも掘りに行きました。思っていた以上にたくさんのじゃがいもが掘れて大喜びの子どもたちでした。「大きい掘れた!」「これは色が黒いけどなんて名前のお芋?」と言いながら、楽しそうに芋を掘っていました。掘ったじゃがいもは

それぞれ家庭に持ち帰り、美味しく頂きました。

各クラスで、稲を育て始めました。芽が出ていることに喜びを感じていたり、大事に毎日お水をあげていたり、お米が出来るのを楽しみに待っている子どもたちです。



TEL : 093 201 9559

e-mail : coutactus@mizumakiseibo.ed.jp

〈マリア子どもの家〉



ビワの樹に、今年もたくさんの実がつき、豊作でした。まだ寒い冬に花を咲かせ、小さな緑の実が、ぐんぐん大きくなり、どんどんオレンジ色になっていくのを観ました。そして、「ビワですよ!」と小さな手に載せてもらい、大事そうに持っていました。たくさん採れたのでマリア子どもの家のご家庭にもおすそ分けがありました。

また、畑やプランターで、じゃがいも掘りをしました。収穫したお芋は、エプロンを着けた子どもたちが順番に洗い、蒸して、皮をむいてバターナイフで切って、すりこぎでつぶしました。つぶしたじゃがいもをパンの生地に入れてじゃがいもパンにして食べました。ほくほくして美味しかったです。



TEL : 050 5212 7759

[https : www.mariahouseofchildren.jp](https://www.mariahouseofchildren.jp)

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同

ようこそブラッドリー神父様

2025年福岡教区の人事異動により、水巻教会の司祭として就任されたブラッドリー神父様。6月15日三位一体の主日のミサ後、信徒会館にて歓迎会が行われました。ふれあい会の皆様がご用意くださったおむすびとサンドイッチに加えて、手作りのトコロテンや温かいぜんざい、コーヒーゼリー、マンゴーゼリーなどを戴きながら、地区ごとにテーブルに座って神父様へ家族の紹介、自己紹介を行いました。信徒の一人は神父様の説教がとても理解しやすく、有り難く楽しみに聞いていますと挨拶されていました。

先月号でご自身の紹介文にもありましたように、神父様はスリランカのカトリック聖母献身宣教会、オブレート会にて司祭になられ、総長神父に選出されて日本に来られました。それから今年で31年目になります。難しい日本語を完全に習得されて、語られる聖書の言葉はとても丁寧で易しくて、聴く者のこころに浸透していくようです。

日本人のアイデンティティ(国民としての文化、誇り)で



ある奥ゆかしさと謙遜で礼儀正しく、清廉な生き方を神父様に窺い知るように感じます。

ルカによる福音で、イエス様は食べ物がないと言う弟子に対して「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と言われた。或る中学陸上部指導者が使用した言葉を引用されました。『できないのではない。やらないのである。』と。この言い訳を日常的に使用している自分の姿と、やりたくないと思う自分の我儘さも反省させられます。長年の献身と奉仕と学

びで蓄積されてきたたくさんの神様のみことばが、信徒一人ひとりの心に届くようにこれからも語り証して頂けますようお願い致します。

古賀からJRで通って来られる神父様のご健康とご無事を祈ります。

委 員 会 等 報 告

2025 年 6 月 分

6月度小教区委員会 6月8日

1. 行事予定

- ・ 7月 6日(日) 9時半～ミサ
ミサ後～小教区委員会
- ・ 7月 13日(日) 9時半～ミサ
ミサ後～教会学校
- ・ 7月 20日(日) 9時半～ミサ
※アバイヤ司教様、公式訪問日。
ミサ後懇親会
ベトナム語ミサ 18時～
- ・ 7月27日(日) 9時半～ミサ
ミサ後こころの会・教会学校

2. 議題

(1) 各専門委員会および代表委員(営繕、納骨堂、冠婚葬祭)、北九州地区宣教司牧評議委員より

①広報委員会

- ・ 特になし

②典礼委員会

- ・ ミサの進め方について、神父様と打合せを行った。
- ・ 信徒による通夜の実施については、時間をかけて話し合っていく。
- ・ 家族内で信者が一人だけという家庭も多い。遺族が仏式で葬儀を執り行ったという話もよく聞く。家族に通夜や葬儀についての要望を生前に説明しておくことも大切。通夜や葬儀の実施要領や取り決め事項をまとめたプリントの作成を検討していく。

③総務委員会

- ・ 特になし

④財務委員会

- ・ 特になし

⑤営繕の部

- ・ 祭壇のエアコンの修理は完了した。
- ・ 信徒会館のリモートWEB配信工事は33万円ほどかかる見込み。8月11日の福岡教区平和の集いのライブ配信に間に合うようにしたい。

⑥納骨堂管理の部

- ・ 6月29日ミサ後に納骨堂利用者集会を開催する。

⑦冠婚葬祭の部

- ・ 特になし

⑧北九州地区宣教司牧評議会

- ・ 5月25日に開催された。
- ・ 地区分担金を 100 円/人→150 円/人に見直す。年1回徴収。交通費、会場使用料の支払いのために使用すること。水巻小教区の負担金は 150 円×717 人＝107,550 円相当になる。
- ・ 北九州地区行事、その他予定
- ・ 10月12日 加賀山隼人 殉教ミサ
小倉教会 15時～
- ・ 福岡教区100周年に向けての垂れ幕を準備する予定。費用は見積中。必要な場合は申請が必要。
- ・ 福岡教区100周年の行事に向け、北九州地区でバザーを行う予定。

(2) 信徒総会を振り返って

- ・ 総会で意見として出された駐車場不足対

策についての要望に対して、近隣の施設に協力いただけないか相談する。無理であれば、道路使用許可について折尾署に相談することとする。

(3) その他

①ブラッドリー神父様歓迎会

- ・役員会で食事の準備をする。

②8月以降 福岡教区 100周年の共同祈願担当者

・これまで小教区委員が担当してきた。8月以降は北九州地区宣教司牧評議員、小グループ代表者の方をお願いする。但し、既に担当したことがある人は除くこととする。

●8月 北九州宣教司牧評議員/広報委員 常定さん

●9月 召命を祈る会 対馬さん

●10月 聖歌隊 宮城さん

●11月 お花を生ける会 川島さん

●12月 クリストフォール 岡部(和子)さん

●1月 図書 豊永さん、

●2月 ふれあい会 吉田さん

●3月 抱僕支援会 田中(拓)さん

●4月 聖書の分かち合い 小野さん

●5月 こころの会 岡本さん

●6月 ラシーヌの会 矢田さん

③地区集会

- ・6月いっぱいを目途に各地区で開催する。
- ・議題 ・巡礼旅行 する/しない、行き先、費用の持ち方
- ・掃除の人数確保(人数を確保できていない地区がある)、地区割りや回数の見直し
- ・通夜、葬儀のこれからのあり方、要望

・8月10日(日) 平和祈願ミサ(各小教区で開催)の内容についてのアイデア出し
折り鶴奉納・共同祈願作成・ビデオ鑑賞・子どもたちへのメッセージ・子どもたちからのメッセージ・戦争体験・ベトナム語の平和の歌をともに歌う、などなど

・災害募金(ミャンマー、ガザ)をいつまで続けるか。災害支援以外にもできることはないか。身近で困っている人にも目を向けてはどうか。

・小教区の課題など具体的な課題の抽出
高齢者、若者などが集う場づくり、などなど

④教会学校デイキャンプ

・7月20日 直方教会がデイキャンプを計画している。水巻教会、飯塚教会、田川教会、新田原教会に声をかけている。

・水巻教会はアバイヤ司教様の訪問日と重なっているので、途中参加できるのであれば参加したい。

⑤6月27日(金) 絶えざる御助けの聖母

・水巻小教区にとって大切な記念日です。ミサを行う予定はありませんが、その意義についての説明を週報の裏面に記載し、取り次ぎを願って祈るように呼びかける。(広報委員会で準備する)



7月のおしらせ

★特別献金★

○5月25日 世界広報の日献金
16,580円
ご協力、ありがとうございました。

★各募金の中間報告★

第8回目の送金を5月20日に行いました。

能登地震支援 28,090円

ガザ人道支援 51,891円

ミャンマー地震支援 31,061円

ありがとうございました。引き続きご協力をお願いします。

★アベイヤ司教様公式訪問★

日 時：7月20日(日)
午前9時30分～

ミサ後に、司教様を囲んで茶話会の予定です。

人・ひと

【帰天】安らかに！

5月23日

◇ヨハネ 丸尾 清次郎さん

(折尾地区)

6月7日

◇マグダラのマリア 森田 鈴子さん

(梅ノ木地区)

【転入】ようこそ！水巻へ

◇本多 史子さん

東京教区蒲田教会より海老津地区へ

◇岩永 正子さん

名古屋教区刈谷教会より中間地区へ



今年も日本カトリック平和旬間の期間中に、教区主催の「平和を祈る集い」が行われます。開催日は8月11日(月)。当日は「山の日」の祝日にあたります。場所はカテドラルカトリック大名町教会。テーマは「戦後80年 平和への誓いを新たに」。

企画内容はノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)九州ブロック代表・中村 国俊さんの講演や教会学校クラス、中高校生クラスの分科会(テーマ Pray with you -ともに祈る-)などのほか、アベイヤ司教様司式による平和祈願ミサが行われます。

さらに展示企画として浦上教会の被爆マリア(レプリカ)の展示のほか、小教区単位で「絵、俳句、川柳、短歌」の展示が行われます。

つきましては、水巻教会からも出展を企画しており、7月いっぱいをめどに公募します。教会の後方にそのための箱を用意しますので、ふるって応募してください。よろしくお願いします。